

アノード酸化により チタン表面に 光干渉芸術作品を制作する

担当教員：武藤 泉, 西本 昌史* (*連絡先：masashi.nishimoto.b8@tohoku.ac.jp)

概要

金属のキャンパスの上に絵の具を使わずに絵を描くにはどうすれば良いか。発色にはアノード酸化によってできる酸化皮膜の光干渉効果作用が利用できるだろう。すなわち、アノード酸化処理の溶液と電圧を選ぶことで任意の色を金属表面に付けることができる。ここでは、チタンのキャンパスを用いて発色の機構を学びながら、どのようにすれば複雑な構図を描いたり、微妙なグラデーションを実現できるかを考えると共に、美しい芸術作品を制作することを目指す。



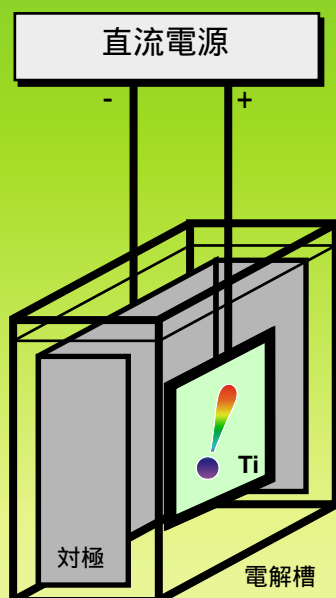
岩手山



マグカップ



万華鏡



水槽